



白神山地だより

ビジターセンター

No.21

2012.春の号

白神山地の植物

弘前大学白神自然環境研究所 山岸 洋貴

白神山地には、ほぼ原生の姿をとどめた広大な面積のブナ林が存在します。その林床には日本海側多雪地帯に適応した様々な植物達が生育し、ブナと共に豊かな森林生態系を形成しています。さらに局所的な環境条件を反映した高山植物群落や白神山地周辺でみられるヒバ林、ミズナラ林などはブナ林と共に白神山地周辺の植物相をより一層多様にし、この地域の生物多様性を豊富にしています。

世界的にも稀なブナの森



[白神山地のブナ]

白神山地を代表するブナ (*Fagus crenata*) は、ブナ科ブナ属に属する日本を代表する樹木の1つです。属名である学名のFagus(ファガス)とは、

ラテン語で「食べる」の意味で、種子を食したことに由来すると考えられています。またヨーロッパでは「母なる木」と呼ばれ、古くから人々と密接な関わりがあった樹木だったことがうかがわれます。

現存するブナ属植物は約12種類知られ、ヨーロッパ中西部、黒海・カスピ海周辺、東アジア、北アメリカ東部、メキシコ東部といった北半球のみにそれぞれ分布しています。日本ではブナのほか、主に太平洋側に分布するイヌブナが生育しています。このイヌブナを含むほとんどのブナ属植物は他の木本種と混生し、白神山地でみられるようなブナが優占する大規模な森を形成することはほとんどありません。ヨーロッパ中西部にはヨーロッパブナが優占する森がみられますが、その多くは過去に新炭林として伐採された後、植栽されたものです。またヨーロッパブナの林床はかつての氷河の影響から植生が非常に貧粗であることが知られています。このようなことから、ブナ属の植物が優占し、林床の植生が比較的豊かな白神山地の森は世界的にみても珍しい存在なのです。

白神のブナを楽しむ

ブナを漢字で書くと「樺」になりますが、これは木材としてほとんど利用価値がなかったところから由来していると言われていています。材が柔らかく腐りやすい性質のために一部の地域を除いて昔は価値の無い樹木とされていました。現在は木材加工技術が進んだために様々な用途で利用されるほか、その樹形や森林の美しさが多くの人々から注目されています。これには白神山地の世界遺産登録も大きく貢献しているのではないのでしょうか。



[根開けの森の様子]根元の穴からノウサギが顔を出すこともある。

長い冬が終わりを告げ暖かな日差しがさすようになると、森の中では雪が木々の根元から融け始めます。これを根開けといいます。その頃になるとブナの枝先の芽が膨らみ始め、ブナは他の樹木達よりも早く一斉に若葉を展開させます。若葉の淡い緑がブナの樹皮に映えとても美しい風景が広がります。さらに雪の上にはこれまで厳しい寒さや乾燥から新芽を覆って保護していた芽鱗がりんが大量に落ち、早春のブナの森に彩りを添えています。春先の葉が展開してから2週間ほどでブナは一年間分の枝の伸長を終えます。いち早く太陽の光を独占できるようにするためのブナの巧みな戦略の1つなのでしょう。

ブナの実りには豊凶があります。およそ5～7年に1度、森全体で大量に種子をつけ豊作になるのです。春先、ブナの枝先を見ると垂れ下がる雄花と小さな雌花が大量についている年があります。そうであれば豊作が期待できますので、是非とも観察してみてください。(白神山地の豊凶の様子は、環境省の白神山地世界遺産センターからの報告書によって知ることができます。詳しくはご覧ください。)ブナがなぜこのような特徴を持つのかははっきりとわかっていませんが、ブナの種子を食べ

る動物達との間で生じた競争の結果ではないかと考えられています。ブナの種子が成熟するのは10月頃で、クリのいがに相当する殻斗かくとの中には2つの種子が入っています。種子はそのまま食べても煎って食べても美味しくナッツの味がします。機会があれば是非ともお試しください。



[ブナの実生]手前にあるのがブナの殻斗。ブナの実生も美味しい。

豊作の翌年の春には大量の実生みしょうが現れます。かわいい双葉の実生ですが、ほとんどが病気や食害で1年も経たずに死亡してしまいます。森の中で実生が成木まで成長できるのは僅か0.1%以下だと推定している研究例もあります。



[樹皮の様子]ブナやホオノキなどの樹皮には独特の模様がある。これは地衣類とよばれ藻類と菌類が共生しているもの。

ブナの研究はさまざま行われており、研究対象にする研究者も比較的多い植物種といえます。白神山地ビジターセンターをはじめ、白神山地周辺の様々な施設ではブナに関する展示や解説がありますので、ブナの森を訪ねる前にブナについて予備知識を備えておくとまた違った視点でブナを楽しむことができますと思います。まだまだここでは書ききれないブナには面白い特徴がありますので是非調べてみてください。

多雪地帯を生き抜く林床の植物達



[マンサクの花]春を告げるマルバマンサクの花。萼片が黄色いタイプもの。

白神山地ではまだ雪深い頃に小さなかわいい花を咲かせている低木があります。これはマルバマンサク (*Hamamelis japonica* var. *discolor* f. *obtusata*) という植物で、主に太平洋側に分布するマンサク (*H. japonica*) が日本海側多雪地帯に適応した変種です。この花の咲き始めを合図に雪国では春の訪れを感じることができます。花をよく見ると萼や花弁の色に多くのバリエーションがあり、それらを見つけるのも楽しいですし、動物達の息吹があまり感じられない早春にどんな昆虫が花を訪れるのかを調べることもシーズン初めの自然観察としてお勧めです。

マンサクを漢字で書くと「満作」であり、枝にたくさん花をつけることに由来すると考えられていますが、春一番に「まず咲く」ところから「まずさく→まんさく」と名がつけられたという説もあります。

マルバマンサクとマンサクのように近縁でありながら日本海側多雪地帯と太平洋側とは、少し形態が異なる植物がたくさんあります。例えば、白神山地でよく目にするヒメアオキ (*Aucuba japonica* var. *borealis*)、エゾユズリハ (*Daphniphyllum macropodum* subsp. *humile*)、ハイイヌガヤ (*Cephalotaxus harringtonia* var. *nana*)、オオバクロモジ (*Lindera umbellata* var. *membranacea*)などは、主に太平洋側に生育するアオキ (*A. japonica* var. *japonica*)、ユズリハ (*D. macropodum*)、イヌガヤ (*C. harringtonia* var. *harringtonia*)、クロモジ (*L. umbellata*) と近縁でありながらそれぞれ多雪環境に適応し進化したものと考えられています。春先の林床を黄色く染めるオオバキスミレ (*Viola brevistipulata* subsp. *brevistipulata*)、距とよばれる花弁の一部が長いのが特徴であるナガハシスミレ (*Viola rostrata*)、大きな花弁を持つスミレサイシン (*Viola vaginata*) などといった白神山地周辺で観察することができるこれらのスミレ属植物も主に日本海側に分布する草本植物です。



[ヒメアオキの雄花] ヒメアオキの花をよく見ると雌雄異株であることが分かる。



[ツチアケビの花] 葉緑体を持たない菌に寄生するランの一種。夏、林床でみることができる。



[ツクバネソウの果実] 秋の林床にはかわいらしい果実をつけた草本植物を観察できる。



[ナガハシスミレ] 花弁の突起が距とよばれる。本種の特徴。



[スミレサイシン] 近縁種であるナガバノスミレサイシンは太平洋側に分布する。

白神山地のこれから

白神山地の美しい自然を持続的に維持させるためには、白神山地の自然環境がどのようなものかをしっかりと科学的に捉える必要があります。今後、地球規模で生じるであろう様々な環境変動に対して白神山地の自然がどのように応答するのか、どんな影響が出るのか理解するために重要だからです。地球温暖化がブナの生育地を大きく変える可能性があることを指摘している研究結果があります。それによると温暖化の条件によっては白神山地のブナの森の多くが失われるだろうと予測されているのです。これは白神山地のみならず、日本全体の豊かな自然が大きく変わることを意味しています。多くの人々から愛されている白神山地

では、地域の方々、行政、大学などの多くの機関が連携して様々な問題に取り組んで行くことが可能だと思います。豊かな自然と人間がどう向き合うべきなのか、その1つの答えを世界自然遺産「白神山地」から広く発信していけたらと白神山地を研究する1人の白神ファンとして強く思います。



【白神の山々】この自然を次世代の子供たちに残すことが私達の使命ではないだろうか。

特設コーナー案内

平成23年度から国語科5年生教科書に『世界遺産～白神山地からの提言』という教材が掲載されています。白神山地に係わる様々な文章や資料を関連させて読み取り、白神山地の自然保護に対する意見文を書くことを目的としたものです。

特設コーナーでは、千葉県の小学校5年生の皆さんが教科書だけでなく、白神山地に関わる新聞記事や、ビジターセンター発刊のセンターだより、白神山地のパンフレットなどを読み比べ作成した『白神山地ブック』を展示しています。

生徒の皆さんが、白神山地を訪れる方々や、白神山地を守っている方々に自分たちの考えを知ってもらいたいと一生懸命作成したそうです。この機会にご来館いただき、ぜひご覧ください。

掲示期間 平成24年2月10日(金)～7月8日(日)

「ホワイエ」をご利用ください

2階のホワイエをご覧になったことはありますか。ホワイエは静かな空間となっており、無料で写真展などに利用できる場所です。写真展や個展など開きたい方はお気軽にご相談ください。

現在は、写真展「済州島の自然」「春の山野草」を開催しておりますので、ご来館をお待ちしております。

白神山地ビジターセンター

〒036-1411 青森県中津軽郡西目屋村大字田代字神田61-1

Tel.0172-85-2810 Fax.0172-85-2833 ホームページ <http://www.shirakami-visitor.jp/>

開館時間	■7月1日～10月31日 8:30～17:00	大型映像上映時刻 ■9:00・10:00・11:20・13:00・14:10・15:20・16:20
	■11月1日～6月30日 9:00～16:30	(※上映時間約30分) ■10:00・11:20・13:00・14:10・15:20
休館日	①4月～12月 第2月曜日(祝日の場合は翌日) ②1月～3月 毎週月曜日と木曜日(祝日の場合は翌日)	
	③年末年始 12月29日～1月3日	
	入館料等 ●入館は無料 ●映像観覧は有料 ○一般…200円 ○小・中学校…100円 ※団体割引(20人以上)	

※42名まで収容できる会議室、工作室があります。ご利用下さい。(要申込み) ※学校の見学や体験学習については相談を受けています。ご連絡下さい。